

第2章 再整備の基本的方向性

2-1 道の駅「那須高原友愛の森」に関する課題

友愛の森は、平成9年に道の駅として認定されて以来、観光交流、農業振興、伝統工芸及び文化発信の拠点として、年々来場者が増加している。しかし、それに伴いトイレや駐車場の不足など、新たな問題が発生している。また、農産物直売所や物産センターの売場面積やレストランの座席数の不足により、慢性的な混雑が発生するとともに、売上高も頭打ちとなっている。

町内の観光客入込数が伸び悩むなか、友愛の森は那須観光の玄関口としての町内全域への波及効果を、今まで以上に期待されている。また、平成27年3月に外国人観光案内所に認定され、那須観光の起爆剤としての期待はさらに大きくなっており、道の駅の基本機能である情報発信機能、休憩機能及び地域連携機能のさらなる強化が求められている。

併せて、東日本大震災の教訓を踏まえ、リスク管理の観点から町民はもとより観光客も含めた一時避難所の必要性も認識されている。

さらに、サイクルスポーツの拠点整備や渋滞対策など、既存の道の駅の概念にとらわれない、オリジナリティーのある複合型の道の駅としての姿が求められている。

なお、現在の友愛の森に関する課題は、以下のとおり整理される。

○情報発信機能

- ・友愛の森から町内全域への周遊を促す波及効果のさらなる拡大。
- ・インバウンド観光に対応するための施設の不備。

○休憩機能

- ・来場者の増加による駐車場不足。
- ・来場者の増加によるトイレ不足。
- ・来場者のための休憩場所の不足。

○地域連携機能

- ・農産物直売所、なすとらん、物産センターの店舗面積の不足。
- ・地域の会議、研修、展示、イベントなどに利用できる多目的スペースの不足。
- ・観光入込客増加の起爆剤としての魅力向上。

○防災機能

- ・災害時における地域防災拠点の不足。

○渋滞対策

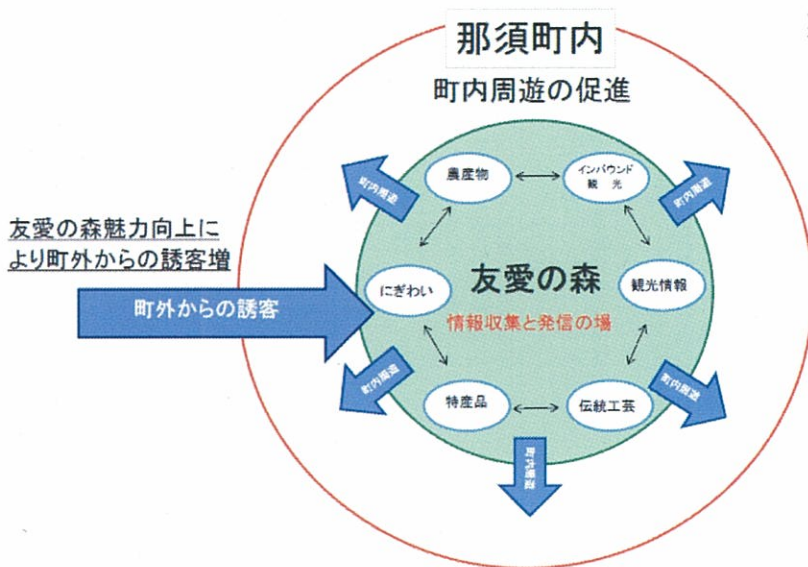
- ・地域周辺の渋滞緩和。

2-2 道の駅「那須高原友愛の森」再整備のテーマ

友愛の森の魅力向上を図ることで、町外からの誘客を増大する。さらには、友愛の森を訪れた観光客の町内周遊を促進する役割を担うことを最大の目的とする。

<再整備テーマ>

～ 那須高原の総合ターミナル ～ (那須町観光の玄関口として)



那須町内への周遊を促す道の駅
(那須町観光の玄関口)

友愛の森は、地域活性化の拠点として、高原リゾートとしての上質空間とおもてなしを実現し、多くの方に那須の魅力をもPRすることで町内の周遊を促す道の駅としての役割を担う。

2-3 再整備の目標

• 友愛の森への来場者の増

110万人 (約38万人の増)

友愛の森の魅力を向上させることにより、多くの人々が立ち寄る道の駅を目指す。

• 町内消費額の増

約87億円 (約30億円の消費増)

友愛の森から町内への周遊を誘発することにより、観光業や商工業その他産業への波及効果(消費)の拡大を図る。

• 地域振興への寄与(友愛の森内における消費額増)

約7億円 (約2.2億円の消費増)

友愛の森内において町内産の農産物や那須ブランドの販売、那須の食の提供、伝統工芸の実演、体験、販売により那須町の物産等の魅力をPRするとともに、農業を始めとする地域振興に寄与する。

■目標設定の考え方

○友愛の森への入込数

- ・平成28年度的那須町の年間観光客数約480万人に対し、友愛の森は約72万人(約15%相当)の入込みがあった。
- ・第7次那須町振興計画においては、平成32年度の年間観光者数の目標値を550万人に設定している。また、友愛の森の入込数の目標は 110万人(観光客数の20%) に設定している。

○町内消費額

平成28年度の友愛の森入込数 719,125人

- ・入込(約72万人)の90%が町内で周遊すると想定。⇒町内周遊者数約65万人

消費額の平均値(平成25年度那須町観光調査報告書)

宿泊客 18,073円 日帰客 4,135円

- ・宿泊客と日帰客の割合 34.7 : 65.3 ≒ 1:2
- ・上記より現在の町内消費額

65万人×{1/3×18,073円+2/3×4,135円} ≒ 約57億円(①)

(再整備後)

想定利用者数 110 万人 利用者数の 90% 99 万人

・町内消費額

99 万人× {1/3×18,073 円 + 2/3×4,135 円} ≒ 約 87 億円 (②)

②-①=約 30 億円

以上から、友愛の森への誘客増及び友愛の森から町内への周遊促進により約 30 億円の町内消費額が増加すると想定される。

○友愛の森内での消費額

友愛の森のリニューアルに伴い、入込客数が現在の約 1.5 倍を目標としており、友愛の森内での消費額も同程度を想定する。

友愛の森内での消費が拡大することによって、農業、工芸、那須ブランド等の地域振興に寄与することになる。

友愛の森内での消費額

474,551 千円 (H28 売上) × 1.5 ≒ 7 億円

以上から、友愛の森のリニューアルに伴い約 2.2 億円の消費額が増加すると想定される。

2-4 再整備の基本方針

施設の空間設計にあたっては、「那須らしさ」を表現した構成とし、上質な空間を演出するとともに、「にぎわい」を感じさせるスペースとする。

また、県道 17 号と県道 30 号を通行する車両からの施設の視認性を向上させることにより、立寄り車両の増加を図る。

周辺道路状況の改善のため、県道 17 号と県道 30 号を連絡する町道整備を行い、道の駅周辺の渋滞緩和を図る。

整備計画の策定にあたっては、極力、既存施設の有効活用を図るとともに、新築する施設については必要最低限の建築面積とし、事業費の節減に努める。また、国の交付金などを積極的に活用し、町の負担額の軽減を図ることとする。

建築計画

○情報発信機能

- ・那須町の観光情報発信の拠点として観光交流センターの増築を行い、友愛の森から町内への周遊を促進する。
- ・高速バス、周遊バス等の二次交通の発着点となるバスターミナルの利便性を向上させる。
- ・道の駅の利用者から設置要望の多い足湯を整備し、那須の温泉をPRし、那須温泉への誘客につなげる。

○休憩機能

- ・来場者数の増加に対応するために、施設北側に駐車場（以下「北駐車場」）を整備する。
- ・来場者数の増加及び北駐車場利用者の利便性を考慮して、北駐車場に近接する位置にトイレ（以下「北トイレ」）を新設する。
- ・自転車による町づくりを推進するため、サイクリストのための駐輪スペース及び休憩場を備えた拠点施設（以下「サイクルステーション」）を整備する。

○地域連携機能

- ・農産物直売所、那須の食レストラン「なすとらん」（以下「なすとらん」）、物産センターを新たな施設（以下「新館」）に配置し、那須の食と食材の提供及び那須ブランドの販売促進を行う。併せて、来場者のための休憩場所を整備する。
- ・工芸館は、那須の工芸の魅力をPRするため、現在の施設の改修を行い、伝統工芸の実演・体験を充実させる。
- ・なすとらんを補完するための施設として、那須連山を眺めながらゆったりと過ごすことのできるカフェ及びレストラン（以下「カフェ・レストラン」）を新築する。

○防災機能

- ・地域の防災拠点の一つとして、災害等の有事に対応可能な拠点「防災館」及び「防災ヤード」を整備する。
- ・「防災館」及び「防災ヤード」は、通常時においては多目的室及びイベント広場として活用する。

■整備にあたっての準拠法令

当該地における整備の実施にあたっては、以下の法規制等を順守する。

(主な法令等)

- ・自然公園法（国）
- ・森林法（国）
- ・都市計画法（国）
- ・とちぎふるさと街道景観条例（栃木県）
- ・那須町景観計画（那須町）
- ・那須町景観条例（那須町）
- ・那須町屋外広告物条例（那須町）